

病虫害発生予察特殊報(第7号)

平成28年 3月29日

神奈川県農業技術センター

病虫害名：オリーブがんしゅ病

原因菌：*Pseudomonas savastanoi* pv. *savastanoi*

発生物：オリーブ

1 発生経過

- 平成26年8月の静岡県内における *Pseudomonas savastanoi* pv. *savastanoi* を原因菌とする本病害の初発生を受け、平成27年2月、横浜植物防疫所が初発生樹と同一経路で輸入したオリーブを植栽する県内植木販売業者ほ場において、本病害の発生状況を調査し、輸入樹(古木, 品種不明)において“こぶ症状”を認めた。
- 採取したこぶ症状試料から細菌が分離され、横浜植物防疫所および静岡大学における性状検査、病原性確認、遺伝子解析により、分離した菌は *Pseudomonas savastanoi* pv. *savastanoi* と同定された。
- 平成28年1月時点で、当該ほ場で発病を確認した樹は輸入樹のみであり、樹勢低下等経済的被害は認められていない。なお、当該植木販売業者でのオリーブ苗生産は行っていない。
- Pseudomonas savastanoi* pv. *savastanoi* を原因菌とするオリーブがんしゅ病の神奈川県内での発生確認は初めてである。なお、本病害は、平成27年に静岡県で特殊報が発表されている。

2 病徴および生態

(1) 病徴および被害

本病は、多くの場合、小枝や若い枝にこぶを形成する(図1, 2)。また、こぶが枝を取り巻くことで発病部位から先の枝が枯死する場合がある。更に、葉や果実にこぶを形成することもあり、果実の収量・品質に影響するとの報告がある。

なお、本病は、オリーブが栽培されている海外のほとんど全ての地域において発生が確認されており、一般的な病害として防除が実施されている。

(2) 発生生態および伝搬方法

本病の原因菌は、主にこぶ内で生存し、こぶからの漏出物に原因菌が含まれる。また、樹皮、葉、果実など植物体表面でも生存する。

原因菌は、風雨、剪定作業により植物体表面の傷、葉痕、剪定切り口などから侵入・感染し、ほ場内で感染が拡大する。

また、感染苗の移動により広域的に伝搬される。

(3) 寄主植物

オリーブ、アイノコレンギョウ、ウスギモクセイ、セイヨウキョウチクトウ、トキワマンサク、ザクロ など

3 防除対策

- (1) 本病に適用のある登録農薬はないので、耕種的防除が基本となる。
- (2) 発病樹、発病部位は確認したら速やかに除去し、土中に埋没処理する。
- (3) 雨の多い時期、雨天時の管理作業は、感染を助長するので極力避ける。
- (4) 発病樹、感染が疑われる樹の管理作業後は、使用した器具の消毒を徹底する。



図1 枝基部(左)および枝(右)に発生したこぶ症状
平成27年2月調査時(横浜植物防疫所提供)



図2 枝基部(矢印部)に発生したこぶ症状
平成28年1月調査時

神奈川県農業技術センター 病害虫防除部
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>